

民
市
学
習
会

学力の「点取り競争」で学力向上は望めない③

4・大阪での

学テ対策

(1) 陰山府教育委員長

・「低下の要因「緩み?」、そして、「昨年度より対全国比が下がった市町村」

「下がっていない市町村」と市町村名を具体的にあげて、「対策」を講じよとある。

・「勉強とは何か?」という項目に、「勉強とは、脳を上手に使うトレーニングである」「勉強とは集中する練習である」「集中は学習の手段ではない。目的だ」と書かれている。

(2) 府内各地での状況

・多くの市町村教育委員会は、学校ごとの結果公表には慎重姿勢を示していますが、泉佐野市や寝屋川市では「公表」という事態もおこってきています

・学校ごとの結果公表は、学校のランク付けとなり、義務教育段階からの学校の序列化になるものであり、断じておこなってはなりません

5・まとめ

(1) 学テ体制を

打ち破るために

・学力テストは、「行政調査」ですから、その調査に参加するかしないかを決める権限は、市町村教育委員会にあります。あらためて、市教委に対し、全国いっせい学力テストについて、不参加も

ふくめた自主的決定をおこなうことを厳しく求める必要があると思います

・教育委員会制度改悪のもとで、「教育委員を育てる」「教育のことをまともに考える教育委員になってもあらう、ことも、父母・地域住民の重要な課題になってきています。

(2) 子どもたちに

学ぶ意欲と喜びを

子どもたちは

・本来、学ぶことは子どもたちにとって楽しいこととです。

・それは、「人に勝つから楽しい」というものではなく、

・自然や社会について、新しい知識を得ること、その知識を使って考えることができるようになること、これが楽しいのです。

・その子どもたちの「知

りたい」「学びたい」という意欲に根ざして、子どもの成長・発達を助けるのが、教育のいとなみの中心点です。

・そうした教育をつくりあげましょう。

子どもたちは

・子どもが「わかったあ」というとき、教職員は、心の底から嬉しくなりま

す

・子どもは「わかって、できた」とき学ぶ意欲を持ちます

・もっと知りたい、わかりたいという願いにこたえましょう

・『あしたも学校へ行きたいな』(「大阪教育文化センター編集・子どもと教育・文化を守る大阪府民会議発行」2009年6月)では、こう書いています。

和泉市の学校給食をよくする会第2回市民学習会

「学校給食委託になったらどうなるの?」

資料代 300円



日時：11月30日(日)午後2時～4時

場所：和泉シティプラザ

コーディネーター：檜原 正澄さん

関西大学経済学部教授 農学博士
(豊かで安全な学校給食をめざす大阪連絡会会長)

和泉市教育委員会は、学校給食調理業務の民間委託を決定しました。調理業務が委託になると、今までの給食と何が違うのか、どう変わるのでしょうか。大阪府下の小学校で直営校・委託校の両方の給食に携わってこられた栄養教諭の方からお話を伺い、考えたいと思います。みなさんのご参加をお待ちしております。

0725-45-7640 和泉市職員労働組合

・「学校の役割は、真実や真実を子どもたち自身が身につけることを援助することです。学ぶ内容が、子どもたちが生活の中で感じている疑問や、知りたいと思っていることにこたえ、もっと学びたいという意欲につながるものでなければなりません。また、自分とは違う意見や考え方をもち仲

間の中で、お互いを尊重する関係をつくりながら学び合うということが大切にされなければなりません。そうしてはじめて『わかった、できた』という喜びが実感でできます」



組合に加入して、「教育基本条例」「評価・育成システム」をなくそう!